

参考資料

(研修俯瞰図)

参考資料

研修俯瞰図

山梨学院短期大学 保育者等育成指標モデルワーキング 作成

		育成指標項目	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ・第4ステージ
A	子ども	A1 子どもの人権	A1-1 〈多様な子どもの受容〉 ○家庭環境、人種、職業等の違いの認識 ○差別的・否定的な言葉・表現の理解 〈人権を守る保育〉 ○子どもの人権と権利の理解 ○性差/個体差の認識と共有 ○「子どもの最善の利益の尊重」の理念の理解 ○子どもの権利条約（生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利）の理解 ○ハラスメント・ジェンダーの認識 〈配慮を要する子どもの保育〉 ○インクルーシブ・特別支援教育(障がい・異文化・多文化)の理解	A1-2 〈多様な子どもの受容〉 ○家庭環境、人種、職業等の違いの理解 〈人権を守る保育〉 ○子どもの人権と権利の共有 ○子どもの権利条約(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)の理解 ○ハラスメント・ジェンダーの認識 〈配慮を要する子どもの保育〉 ○インクルーシブ・特別支援教育(障がい・異文化・多文化)の共有	A1-3・4 〈多様な子どもの受容〉 ○家庭環境、人種、職業等の違いの共有 〈人権を守る保育〉 ○「子どもの最善の利益の確保」の組織としての実施 ○人権教育論の理解と共有 ○子どもの人権と権利の擁護 ○少年法/児童福祉法/発達障害者支援法/家族法/児童憲章等の理解と共有 ○子どもの権利条約（生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利）の理解と共有 ○ハラスメント・ジェンダー・マイリティ・共生社会・合理的配慮の共有 〈配慮を要する子どもの保育〉 ○インクルーシブ・特別支援教育の体制構築
			A2-1 ○食育の理解 ○視診・触診 ○家庭との連絡(既往症と持病、アレルギー)の把握・対応・配慮 ○身体測定、健康記録 ○健康衛生指導 ○生活習慣指導 ○健康診断 ○与薬(薬機法) ○就寝管理/呼吸確認(定時・SIDS対応) ○救急法(ケガの対応・心肺蘇生法・AED等) ○エビベン等への対応 ○心理面のケア/アタッチメント	A2-2 ○食育(栄養管理) ○食品衛生 ○園医等との連携 ○保護者への健康(保健だよりも含む)・栄養指導と支援 ○家庭への生活習慣指導と支援 ○与薬(薬機法) ○エビベン等への対応 ○園医・園歯科医・医療機関との連携 ○愛着(アタッチメント)理論	A2-3・4 ○食環境 ○栄養指導と支援(家庭向け) ○伝染病への対応 ○施設の衛生管理 ○薬品管理 ○子どもの生活環境に対する分析と提言 ○与薬(薬機法)
			A3-1 ○救急法(ケガ、心肺蘇生法・AED、誤飲・誤食等) ○安全指導、安全管理 ○積極的なヒヤリハットの活用 ○自園の安全管理マニュアルの理解と確認 <small>○災害・危機管理マニュアル、危険予知・予防(遊具・園庭環境・園外保育・有害動植物等)</small> ○侵入者防御/対応 ○安心・安全な保育	A3-2 ○小児保健(疾病含む)、校医との連携 ○災害管理、安全確認(遊具施設、園内環境) ○後輩への安全指導 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメントー防災計画・訓練(マニュアル)の検証	A3-3・4 ○健康管理 ○責任者論 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメントー防災計画・訓練(マニュアル)の企画・立案・作成・実施 ○重大事故・事件の報告・公表
B	保育者	B2 専門職としての自覚	B2-1 〈専門職としての自覚〉 ○法令と倫理綱領の遵守 ○社会人としてのモラル、ルール、マナーを知る ○自分の仕事を理解し、慣れる ○組織の一員としての自覚を持つ ○クラス担任の仕事を理解する ○社会の動向、変化の理解 ○研修に参加する ○公開保育○個人情報保護の理解 ○公開保育○個人情報保護の理解 ○メディアリテラシー 〈遊びの体験〉 ○自然と触れ合い遊び方を知る ○魅力的な遊びを体験する ○生き物と触れ合い、育て方を知る ○自分の得意分野を持ち、保育に生かす 〈人間性を磨く〉 ○感性を磨く(芸術や美術に触れる) ○社会的活動(地域活動への参加など) ○ボランティア活動	B2-2 〈専門職としての自覚〉 ○法令と倫理綱領の遵守 ○積極的にルールやマナーを理解する ○組織の一員として期待される役割を意識する ○自分の仕事の目的・役割を認識する ○学年としての見通しを持つ ○社会の動向、変化の理解 ○研修に参加する ○他園実習研修 ○公開保育 ○メディアリテラシー 〈遊びの体験〉 ○自然と触れ合い遊び方を知る ○魅力的な遊びを体験する ○生き物と触れ合い、育て方を知る ○自分の得意分野を持ち、保育に生かす 〈人間性を磨く〉 ○感性を磨く(芸術や美術に触れる) ○社会的活動(地域活動への参加など) ○ボランティア活動	B2-3・4 〈専門職としての自覚〉 ○法令と倫理綱領の遵守 ○リーダーとしてのモラル、ルール、マナーを知る ○保育者としてのあり方を具体的に自らが示す ○社会の動向、変化の理解 ○幼児教育の社会的意義を社会に発信する ○研修に参加する○公開保育を企画する ○公開保育を企画する ○メディアリテラシー 〈遊びの体験〉 ○自然と触れ合い遊び方を知る ○魅力的な遊びを体験する ○生き物と触れ合い、育て方を知る ○自分の得意分野を持ち、保育に生かす 〈人間性を磨く〉 ○感性を磨く(芸術や美術に触れる) ○社会的活動(地域活動への参加など) ○ボランティア活動
			B1-1 〈子ども理解〉 ○子どもの心情を読み取り、応答する ○子どもの行動の意味を理解し、受容する ○一人ひとりの育ちを捉える ○多面的な視点から子どもの育ちを捉える ○遊びの中の学びに気付く ○他者との関係の中での育ちに気付く 〈年齢に応じたかかわり〉 ○発達や学びの連続性の保障 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりを理解する ○年齢や発達を考慮したクラス運営の基礎知識	B1-2 〈子ども理解〉 ○子どもの心情を読み取り、語る ○子どもの行動の意味を理解し、語る ○一人ひとりの育ちを捉え、語る ○多面的な視点から子どもの育ちを捉え、語る ○遊びの中の学びを語る ○他者との関係の中での育ちを語る 〈年齢に応じたかかわり〉 ○発達や学びの連続性の保障の検証 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりの検証 ○年齢や発達を考慮したクラス運営の検証	B1-3・4 〈子ども理解〉 ○子ども理解について共有する機会を作る ○ケース会議を企画する 〈年齢に応じたかかわり〉 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりを、生涯の育ちという観点から検証
			B3-1 〈自園理解(建学の精神・園としての持ち味)〉 ○自園の教育・保育理念を理解する ○自園の教育・保育課程を理解する 〈日常の保育の点検〉 ○保育のねらいを理解し意識する ○園のルールを知り、理解する 〈行事〉 ○行事の意義を知る	B3-2 〈自園理解(建学の精神・園としての持ち味)〉 ○自園の教育・保育理念の特長を理解する ○教育・保育課程を編成する 〈日常の保育の点検〉 ○保育のねらいを点検し見直す ○園のルールを検証し見直す 〈行事〉 ○行事を点検・検証し見直す	B3-3・4 〈自園理解(建学の精神・園としての持ち味)〉 ○自園の教育・保育理念の明確化 ○自園の教育・保育理念の特長を継承し課題を改善する ○自園の教育・保育理念を編成し明文化する ○誕生から小学校以降までの育ちを見通した教育・保育課程の編成、解説、共有、見直し 〈日常の保育の点検〉 ○意見を集約し再構成する ○保育の目的やルールの意義を評価し見直しを投げかける 〈行事〉 ○意見を集約・検証し再構成する
A3	安全な園生活	H	A3-1 ○救急法(ケガ、心肺蘇生法・AED、誤飲・誤食等) ○安全指導、安全管理 ○積極的なヒヤリハットの活用 ○自園の安全管理マニュアルの理解と確認 <small>○災害・危機管理マニュアル、危険予知・予防(遊具・園庭環境・園外保育・有害動植物等)</small> ○侵入者防御/対応 ○安心・安全な保育	A3-2 ○小児保健(疾病含む)、校医との連携 ○災害管理、安全確認(遊具施設、園内環境) ○後輩への安全指導 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメントー防災計画・訓練(マニュアル)の検証	A3-3・4 ○健康管理 ○責任者論 ○リスクマネージメント ○危機管理マネージメントー防災計画・訓練(マニュアル)の企画・立案・作成・実施 ○重大事故・事件の報告・公表
B1	子どもと共に育つ	A B C D F	B1-1 〈子ども理解〉 ○子どもの心情を読み取り、応答する ○子どもの行動の意味を理解し、受容する ○一人ひとりの育ちを捉える ○多面的な視点から子どもの育ちを捉える ○遊びの中の学びに気付く ○他者との関係の中での育ちに気付く 〈年齢に応じたかかわり〉 ○発達や学びの連続性の保障 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりを理解する ○年齢や発達を考慮したクラス運営の基礎知識	B1-2 〈子ども理解〉 ○子どもの心情を読み取り、語る ○子どもの行動の意味を理解し、語る ○一人ひとりの育ちを捉え、語る ○多面的な視点から子どもの育ちを捉え、語る ○遊びの中の学びを語る ○他者との関係の中での育ちを語る 〈年齢に応じたかかわり〉 ○発達や学びの連続性の保障の検証 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりの検証 ○年齢や発達を考慮したクラス運営の検証	B1-3・4 〈子ども理解〉 ○子ども理解について共有する機会を作る ○ケース会議を企画する 〈年齢に応じたかかわり〉 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりを、生涯の育ちという観点から検証
B3	自園の理解と実践	F	B3-1 〈自園理解(建学の精神・園としての持ち味)〉 ○自園の教育・保育理念を理解する ○自園の教育・保育課程を理解する 〈日常の保育の点検〉 ○保育のねらいを理解し意識する ○園のルールを知り、理解する 〈行事〉 ○行事の意義を知る	B3-2 〈自園理解(建学の精神・園としての持ち味)〉 ○自園の教育・保育理念の特長を理解する ○教育・保育課程を編成する 〈日常の保育の点検〉 ○保育のねらいを点検し見直す ○園のルールを検証し見直す 〈行事〉 ○行事を点検・検証し見直す	B3-3・4 〈自園理解(建学の精神・園としての持ち味)〉 ○自園の教育・保育理念の明確化 ○自園の教育・保育理念の特長を継承し課題を改善する ○自園の教育・保育理念を編成し明文化する ○誕生から小学校以降までの育ちを見通した教育・保育課程の編成、解説、共有、見直し 〈日常の保育の点検〉 ○意見を集約し再構成する ○保育の目的やルールの意義を評価し見直しを投げかける 〈行事〉 ○意見を集約・検証し再構成する

		育成指標項目	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ・第4ステージ
C 理論	C1 歴史と思想	J K	C1-1 ○現代社会における子どもの問題 ○現代の教育・保育施設の誕生と理念	C1-2 ○社会変化と子どもの状況 ー保育思想の芽生え ○保育制度や乳幼児期養育施設の変遷	C1-3・4 ○現代の保育制度と保育理念 ○多様化する保育ニーズ
			C2-1 〈発達に即した保育〉 ○保育から見取る身体的・知的発達 ○保育を通して見る発達段階と保育課題 ○愛着形成の理解 〈発達の基礎理論〉 ○幼児期の育ち ー身体の育ち ー情動の育ち ー言葉の育ち ー知的な育ち ー友達関係の育ち ー自己肯定感の育ち	C2-2 〈発達に即した保育〉 ○応答的に環境にかかわることの意味 ○自我の発達と家族関係の心理 ー愛着の形成とホスピタリズムー ○子どもの姿と発達理論上の相違の理解 〈発達の基礎理論〉 ○乳児期から児童期の育ち ー社会性の育ち ー道徳性の育ち ー認知機能の育ち ー自我ー性格の育ち	C2-3・4 〈発達に即した保育〉 ○応答的な人的環境とは ○保育者の心理 ○現代の社会環境での発達の課題 〈発達の基礎理論〉 ○生涯発達の視点 ○主要な発達論の理解と乳児期、幼児期、児童・青年期の連続性とその規定要因の理解
			○ピアジェ、ヴィゴツキー、ワロン、エリクソン、ハーヴィガースト、ポウルビイ、アインスワース など → → ○発達のとらえ方、発達段階説、発達の最近接領域、発達課題、内言語、愛着の形成、「母性的養育の喪失」の問題 → →		
C 理論	C2 発達理論	A	C3-1 ○現在の保育制度と保育政策を理解する ○幼稚園・保育所・こども園・認可外保育施設の違い	C3-2 ○保育制度と保育政策の歴史を理解する ○社会情勢の変化に伴う保育施設の変遷と多様化 ○少子化時代の乳幼児保育施設	C3-3・4 ○保育制度と保育政策を踏まえ、これからの保育のあり方構想する ○保育制度の多様化が生む教育・保育観の違い ○現代的課題と保育者・保育施設の役割
			○東京女子師範学校附属幼稚園、新潟静修学校付属の幼児施設、二葉幼稚園、頌栄保母伝習所 → → ○倉橋惣三、城戸幡太郎、A. L. ハウ女史 など → → ○幼稚園令、保育要領から幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領 → →		
			○ピアジェ、ヴィゴツキー、ワロン、エリクソン、ハーヴィガースト、ポウルビイ、アインスワース など → → ○発達のとらえ方、発達段階説、発達の最近接領域、発達課題、内言語、愛着の形成、「母性的養育の喪失」の問題 → →		
D 実践	D1 実践のための知識	C D F	D1-1 ○三法令の理解 〈様々な保育形態〉 ○個と集団の関係性の理解 ○チーム保育の理解 ○異年齢保育の理解 ○インクルーシブ保育の理解 〈配慮を要する子どもの理解〉 ○様々な障がいの基礎知識(自閉症スペクトラム、合理的配慮等) ○子どもの多様性理解(文化・家庭環境・貧困等) 〈遊びの知識と理解〉 ○遊びの意義 ー遊びの中で育まれる子どもの関係性 ー主体的な遊び ー自己表現としての遊び ー探究としての遊び ー協同的な遊び ○5領域の内容を踏まえた遊びの知識 〈教材の知識と理解、作成〉 ○5領域の内容を踏まえた各教材の使い方の理解	D1-2 ○三法令の理解 〈様々な保育形態〉 ○個と集団の関係を生かしたクラス運営の実践 ○チーム保育への柔軟な対応 ○異年齢保育への柔軟な対応 ○インクルーシブ保育への柔軟な対応 〈遊びの知識と理解〉 ○遊びの意味と育ちへのつながり ○自然発生的な遊びの重要性 ○5領域の内容を踏まえた遊びの工夫 〈教材の知識と理解、作成〉 ○5領域の内容を踏まえた各教材と育ちへのつながりの理解 〈教材の知識と理解、作成〉 ○教材の選択、作成、改良	D1-3・4 ○三法令の理解 〈様々な保育形態〉 ○自園の教育理念に基づく保育形態の選択 ○保育形態への理解を促す解説、価値観の共有 ○個と集団の関係を生かした園の体制づくり 〈年齢に応じたかかわり〉 ○年齢や発達に応じた保育内容やかかわりを、生涯の育ちという観点から検証 〈遊びの知識と理解〉 ○遊びの意味と育ちへのつながりの解説と共有 〈教材の知識と理解、作成〉 ○5領域の内容を踏まえた各教材と育ちへのつながりの解説と共有 〈教材の知識と理解、作成〉 ○教材の開発
			D2-1 〈保育の理解と計画〉 ○三法令の理解 ー心情・意欲・態度の育ちの基本 ー環境を通しての保育の基本 ー遊びを通しての育ちと学びの基本 ー協同的な遊びと学びの基本 〈保育の計画等の作成〉 ○主体性が生きる保育の計画の工夫 ○長期計画の理解 ○短期計画の理解と作成 ○行事の意義の理解 ○特別支援教育における個別の指導計画の理解 ○0、1、2歳児における個別の計画の理解、計画の作成	D2-2 〈保育の理解と計画〉 ○三法令を踏まえた計画の立案 ー心情・意欲・態度の育ちを意識した実践 ー環境を通しての保育の実践 ー遊びを通しての育ちと学びの実践 ー協同的な遊びと学びの実践 ー遊びや活動を充実させる時間設定の工夫 〈保育の計画等の作成〉 ○実践に生きる保育の計画のあり方と再構築の考察 ○長期計画の理解と作成 ○短期計画の作成と改善 ○行事の立案 ○特別支援教育を充実させる個別の指導計画の理解と作成 ○0、1、2歳児保育を充実させる個別の計画の作成と改善	D2-3・4 〈保育の理解と計画〉 ○三法令などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 ○遊びや活動を充実させる時間の保障 ○現場で生きる保育の計画のフォーマット作成 ○保育の計画の存在と大切さを社会に発信する方策 〈保育の計画等の作成〉 ○保育の計画等に基づく保育者の指導 ○行事の立案と再構築 ○特別支援教育を充実させる個別の指導計画の作成指導 ○個別の教育支援計画の活用 ○0、1、2歳児保育を充実させる個別の計画の作成指導
			D3-1 ○三法令の理解 ○環境構成の重要さの理解 ○自然、動植物、物や人の環境的役割の基本的な知識と理解 ○興味関心を引き出す環境づくりの技術と習得 ○主体的な遊びを生み出す環境づくりのための技術の習得 ○環境の要としての保育者のあり方の理解 ○子どもと共に環境をつくり出すことの意義 ○落ち着ける環境の理解 ○山梨の地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の発見	D3-2 ○三法令を踏まえた環境構成 ○環境構成と再構成の重要さの理解 ○自然、動植物、物や人の役割を踏まえた環境構成の実践 ○興味関心を引き出す環境づくりの実践 ○主体的な遊びを生み出す環境づくりのための実践 ○環境の要としての保育者のあり方の実践 ○子どもと共に環境をつくり出すための方策と実践 ○落ち着ける環境の理解と創出 ○山梨の地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の発見と活用法の創出	D3-3・4 ○三法令などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 ○環境の構成と再構成を進めやすい基盤づくり ○環境と保育者、子どもの関係の明確化 ○山梨の地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)の活用につながる基盤づくり
D 実践	D2 計画の立案	B C F	D4-1 ○三法令の理解 ○子どもに寄り添う共感的な対応(受容・共感・応答) ○子どもに対して使う適切な言葉と非言語の表現(表情、まなざし、身体表現等)の理解と使い分け ○具体的な保育技術・実践方法の習得	D4-2 ○三法令を踏まえた実践 ○見守り、援助、指導等の適切な使い分け ○実践内容の検証 ○質の高い保育技術、実践内容の精査、継承	D4-3・4 ○三法令などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 ○実践内容の検証をする仕組みづくり ○保育技術や遊びが継承していく仕組みづくり ○園独自の文化の創造と、継承していくための仕組みづくり
			D5-1 ○三法令の理解 〈観察の視点〉 ○様々な観察の視点の理解と思考 〈記録方法〉 ○日誌からエピソードへ ○様々な記録方法の理解 個人の記録と集団の記録 (エピソード、環境図、写真、動画) 〈記録の整理と活用〉 ○記録の整理の理解と思考	D5-2 ○三法令を踏まえた記録 〈観察の視点〉 ○観察の視点の適切な使い分け ○肯定的視点による記録 〈記録方法〉 ○様々な記録方法の実践 (エピソード、ドキュメンテーション、ポートフォリオ ※写真等の活用) 〈記録の整理と活用〉 ○記録の整理による共有と活用 ○保護者との育ちの共有 ○個別記録の引き継ぎ	D5-3・4 ○三法令などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 〈観察の視点〉 ○観察の視点についての指導 〈記録方法〉 ○よりよい記録方法の作成、見直し 〈記録の整理と活用〉 ○記録の共有と活用の仕組みづくり ○エビデンスに基づく育ちの検証と記録ができる
			D6-1 ○三法令の理解 ○評価の意義の理解 自分の実践を客観的に振り返る ○保育者間のカンファレンスの意義 ○PDCAサイクルの基礎的理解 ○計画、実践への反映の理解と思考	D6-2 ○三法令を踏まえた評価 ○評価方法の精査と園内での評価結果の共有 ○保育者間のカンファレンスのあり方 ○園の課題の発見と園内での共有 ○計画、実践への適切な反映	D6-3・4 ○三法令などと自園の教育・保育課程との整合性の検証 ○評価結果に基づく社会への発信 ○情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の醸成 ○地域・社会の課題の発見と共有 ○計画、実践に反映できる仕組みづくり

		育成指標項目	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ・第4ステージ	
E 連携	E1 保護者との連携	I	E1-1	E1-2	E1-3・4	
			○コミュニケーションの方法を学ぶ ○連絡帳の活用方法 ○ICTを活用した情報共有 ○保育参観 ○保護者との懇談会等 ○カウンセリングマインドに基づいた個別面談の理解	○コミュニケーション能力を高める ○連絡帳の工夫 ○ICTを活用した情報共有 ○保育参観 ○個別面談の実践 ○特別な配慮を要する子どもの家庭との連携(家庭支援)	○ICTを活用した情報共有 ○保育参観の企画・運営 ○保護者との懇談会等の企画・運営 ○保護者同士の交流の場の提供 ○自園の保育方針の共有 ○個別面談の機会をつくる	
	E2 子育て家庭の援助	I	E2-1	E2-2	E2-3・4	
			〈家庭を支援する必要性の理解〉 ○預かり保育の取り組み ○子どもと家庭の変容 ○子どものよさを家庭と共有する ○子どもに寄り添う対応 〈特別なニーズを持つ家庭を知る〉 ○不適切なかかわり・虐待への理解と早期発見 ○DV(ドメスティック・バイオレンス)の理解 ○ひとり親家庭への支援 ○子どもの貧困について学ぶ ○自分の育ち(被養育体験)を振り返る	〈支援が必要な家庭へのアセスメント〉 ○預かり保育の保育内容に関する計画 ○親の養育観の理解 ○家庭を取り巻く社会環境の理解 ○子育て意識の変化の理解 ○子育ての負担感や不安感への理解 ○子育てと親育ちへの支援のあり方を学ぶ ○0～2歳児の家庭支援のあり方 ○未就園児の親子登園の現状を知る 〈特別なニーズを持つ家庭を学ぶ〉 ○虐待への理解と対応 ○DVの理解と対応 ○ひとり親家庭への対応 ○子どもの貧困化の現状を知る	〈アセスメントを活用した支援を検討〉 ○子育てにおける地域の中核機関としての機能 ○預かり保育の運営並びに支援 ○子育てと親育ちへの支援 ○未就園児の親子登園の運営 ○子育て講座を実践する 〈特別なニーズを持つ家庭への支援〉 ○虐待への理解と対応 ○DVの理解と対応 ○ひとり親家庭への対応と支援 ○子どもの貧困への支援 ○専門機関との連携を深める	
	E3 社会資源の理解	F G	E3-1	E3-2	E3-3・4	
			〈身近な社会資源を知る〉 ○病院、保健所、保健センター、福祉事務所、図書館、子ども館など 〈専門機関との交流の意義を知る〉 ○保健師との連携を考える ○児童相談所、療育センター、保健センターの役割を知る 〈コミュニティ・スクールの取り組みを知る〉 ○PTA活動・保護者会を理解する ○地域住民の思いやニーズを知る ○運営にあたって様々な取り組みを知る 〈山梨の地域資源の活用〉 ○山梨の地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)にふれあい、保育に活かそうとする	〈専門機関との交流を深める〉 ○児童相談所、療育センター、保健センターとの交流 ○特別支援教育コーディネーターとの交流について ○民生・児童委員、主任児童委員の役割 ○臨床心理士(カウンセラー)との意見交換 ○ファミリーサポートセンターの役割と利用方法 〈コミュニティ・スクールの実践を学ぶ〉 ○PTA活動・保護者会の取り組みを学ぶ ○地域住民の思いやニーズを共有する ○先進的な運営の実践を学ぶ ○園や支援組織・団体との連絡調整を学ぶ 〈山梨の地域資源の活用〉 ○山梨の地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)を活かし、共有する	〈専門機関との連携〉 ○児童相談所、療育センター、保健センターとの連携について ○特別支援教育コーディネーターの役割と連携について ○民生・児童委員、主任児童委員との連携 ○子育てサークルの支援を行う ○子育て支援センターの役割を担う 〈コミュニティ・スクールの運営〉 ○PTA活動・保護者会を運営する ○地域住民の思いやニーズを共有する ○支援者と園の課題や目指す幼児像の共有を図る ○活動計画を作成し実践に取り組む 〈山梨の地域資源の活用〉 ○山梨の地域資源(自然、文化、人材、伝承行事等)を学ぶ機会を提供する	
	E4 保・幼・小連携	C D F	E4-1	E4-2	E4-3・4	
			○保・幼・小の連携 ○幼児と児童の交流 ○保・幼・小の教職員同士の交流 ○子どもの育ちに関する情報を共有することの重要性を理解する	○保・幼・小の連携を理解する ○幼児と児童の交流の企画 ○保・幼・小の教職員同士の交流を企画 ○小学校におけるスタートカリキュラムについて理解する	○保・幼・小の連携への理解と実践 ○接続を見通した交流の企画・運営 ○保・幼・小の教職員同士の交流の企画・運営 ○保・幼・小の発達や学びの連続性を踏まえたアブローチカリキュラムの編成	
	F 組織	F1 同僚性を高める	G	F1-1	F1-2	F1-3・4
				○尋ね、相談する ○積極的にコミュニケーションを図る ○メンター(助言者)等に協力を求める ○ワークショップに参加する	○指導、助言が相手の立場に立てることができる ○職員の話に傾聴する ○メンターの役割を担う ○リーダーの役割を学ぶ	○ワークショップを運営する ○メンターを指名する ○次代のリーダーを育てる ○必要な指導・教育の実施 ○自らへの投資を意識づける
F 組織	F2 組織マネジメント	J	F2-1	F2-2	F2-3・4	
			○積極的にリフレッシュする	○リフレッシュの重要性を理解する	○リフレッシュのタイミングを理解し、提案する ○運営管理 ○人事管理 ○組織目標(保育水準や経営目標)の策定・評価 ○リスク管理(予防・早期対応) ○施設長との連携・協同 ○所長の補佐 ○園全体の職員管理・指導・評価 ○組織の活性化を図る ○仕事の目的・目標を明確化する ○仕事の効率化を図る(ICT化など) ○苦情への対応	